

## 福良港湾口防波堤整備検討委員会からの提案

福良港湾口防波堤整備検討委員会は、平成 25 年、26 年の 2 カ年において、福良港の津波対策の考え方(整備目標)を踏まえ、湾口防波堤の必要性、津波低減効果、港湾利用を考慮した整備案の抽出・選定、および湾口防波堤の設置に伴う潮流・水質への影響解析を行った結果、以下の方針で、湾口防波堤を整備することを提案する。

### <福良港における整備目標>

対象津波	想定地震動	整備目標
レベル1 津波対策 (発生頻度が高い津波)	M8.4 (安政南海地震並み)	避難を前提に浸水被害を軽減。
レベル2 津波対策 (最大クラスの津波)	M9.0 クラス (最大クラスの地震)	レベル2 津波水位を防波堤整備前のレベル1 津波水位並みに低減し、浸水被害を軽減。併せて、避難対策等を推進。

### <湾口防波堤の整備方針>

- 湾口防波堤の設置位置は、既存防波堤を活用して、煙島-洲崎ライン付近とする。
- 構造形式は、固定式(水門を含む)とする。

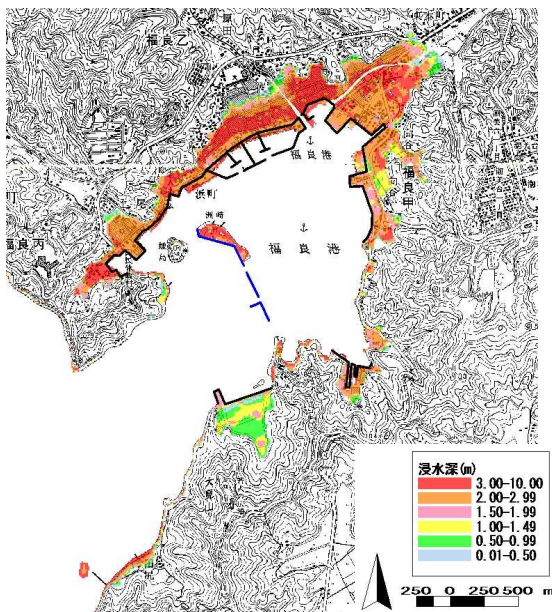
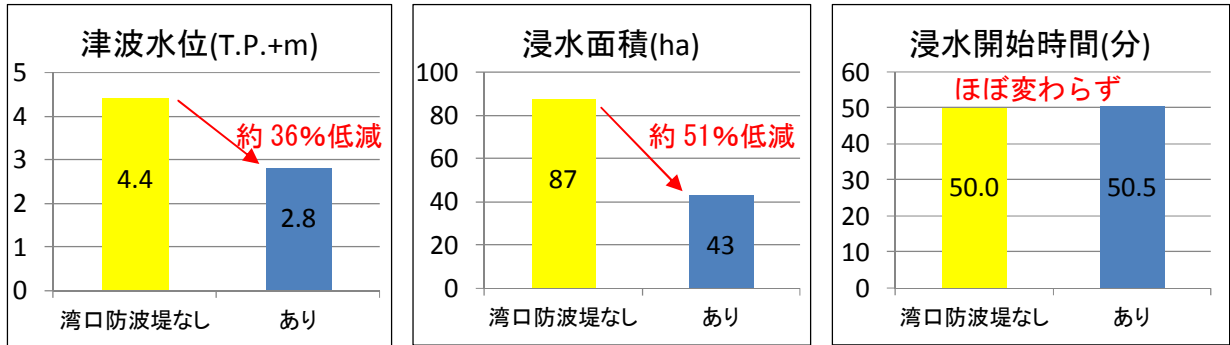
### <湾口防波堤の設置位置>



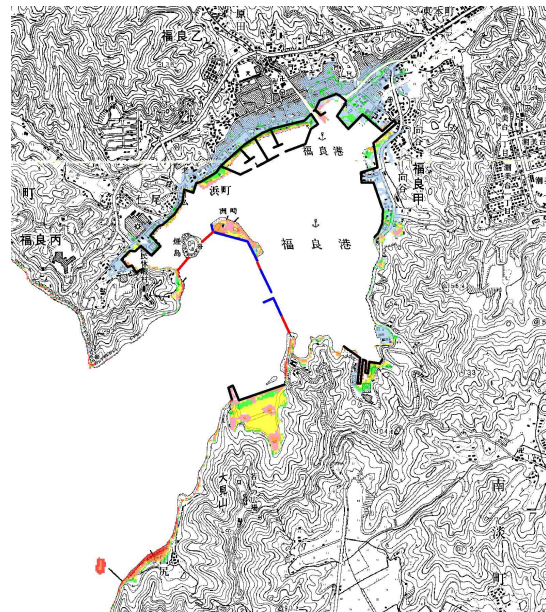
固定式防波堤 L=1,100m(水門1基含む) 事業費約 60 億円

## < 湾口防波堤の効果 >

レベル 1 津波に対し、市街地への浸水開始時間は、ほぼ変わらないが、防潮堤位置での津波水位、浸水面積・浸水深を大きく低減できる。



【湾口防波堤なし】



【あり】

## < 湾内水質への影響 >

湾口防波堤開口部付近で潮流が速くなるが、DO・CODは現況と殆ど変化がなく、湾口防波堤による湾内の水質等への影響は極めて小さい。

